学校教育自己診断結果データ分析（令和5年度）

１．自己診断配付数及び回答数

令和5年度回答人数

	教員	生徒※	保護者	合計
配付	64	882	882	1828
回答	64	764	657	1485
%	100.0	86.6	74.5	81.2

２．観点別肯定率（肯定的回答の割合）	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度
【保護者】	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)
①学校に対する意識に関するもの	92	90	91	92
②学習指導に関するもの	78	76	75	72
③生徒指導、児童・生徒理解に関するもの	83	86	84	88
④進路指導に関するもの	89	89	86	82
⑤いじめに関するもの	88	88	89	86
⑥道徳教育・人権教育に関するもの	92	90	91	89
⑦情報提供に関するもの	89	89	86	82
⑧学校教育への参画に関するもの	85	85	62	41
【生徒】	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)
①学校に対する意識に関するもの	91	89	89	88
②学習指導に関するもの	90	88	89	86
③生徒指導に関するもの	81	82	82	78
④進路指導に関するもの	91	92	90	90
⑤いじめに関するもの	90	89	88	84
⑥教育相談に関するもの	77	74	74	63
⑦道徳教育・人権教育に関するもの	91	90	88	86
⑧特別活動、学校行事等に関するもの	97	95	84	90
【教員】	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)	肯定率(%)
①学校組織に関するもの	92	83	86	76
②教育活動の改善に関するもの	85	78	91	68
③学習指導に関するもの	89	92	86	73
④生徒指導に関するもの	92	81	82	75
⑤進路指導に関するもの	92	90	90	86
⑥いじめに関するもの	92	86	91	77
⑦教育相談に関するもの	92	86	72	81
⑧特別活動、学校行事等に関するもの	90	95	83	76
⑨保護者への情報提供に関するもの	89	83	78	75

３．分析

【学習指導】

〇生徒への質問項目「授業を受けることで知識量が増えたり技術が身についたりする」は90%、「ICTを使った授業はわかりやすい」は91%となり、学習指導については、前年より２ポイント増加した。一方で、保護者は「内容がわかりやすく、ためになる授業が多い」と78%が回答しており、生徒と保護者の間に認識の差があることがうかがえる。アンケート等により保護者の困り感を把握しながら効果的な学習支援について検討していく。

〇生徒の回答では、「１人1台端末を効果的に活用している」の項目88%の肯定的回答となり、前年より８ポイント増加した。また、「思考力を重視した問題解決的な学習を行っている」の項目は、生徒は88%、教員は89%と高い水準を維持した。ICT機器や学習支援クラウドサービスを最大限に活用し、思考判断や表現を重視した授業の推進、教育産業による学習支援クラウドサービスの導入、教員の業務負担の軽減を進めてきた成果が見られる。

【進路指導】

〇「将来の進路や生き方について学ぶ機会がある」については、生徒は91%、保護者も「進路について適切な指導を行っている」については89%、教員は「一人ひとりにきめ細かい指導している」についても92%と、いずれも高評価である。進路指導については学校目標の一つである『第一希望の進路の実現』を達成するために、今後も教育産業や大学等外部の教育機関を活用しながら、生徒・保護者・教員が連携し、効果的な進路指導を実施していく。

【生徒指導】

〇生徒への質問項目で「学校には相談することができる先生がいる」が77%となり前年度より３ポイント増加した。一方で、「先生の指導は納得できる」は81%で前年度より1ポイント減少となった。また、教員の質問項目で「到達度の低い生徒に対する学習指導を、全体的課題として取り組んでいる。」の項目が80%と前年度より８ポイント増加したものの、他の項目と比較すると低い。到達度の低い生徒の学習指導を充実し、同時にきめ細かい教育相談を行うことで、生徒との信頼関係をさらに深めていく。

〇保護者の「家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行い、相談にも応じてくれる」が84%で前年より３ポイント増加した。昨年度より欠席連絡のデジタル化を開始しながらも、必要に応じてきめ細かい家庭への連絡を行っており、保護者との信頼関係が深まっている。

【学校運営】

〇「東住吉高校で満足した学校生活を送っている」の項目は肯定的回答が生徒で91%、保護者で92%となっており、どちらも前年より２ポイント増加している。また、「学校行事に楽しく参加している」の項目では生徒・保護者とも97%とどちらも前年より２ポイント増加している。教員の働き方改革が進む中で、生徒や保護者が満足した学校生活を送れるように、組織的な行事運営を進めていく。

〇「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある」の教員の項目が62%と低いため、今後公開授業の回数を増やしていく。

〇　生徒への質問項目「国際理解について学習したり国際交流に参加したりする機会がある」は86%となっており、前年より９ポイント増加した。今年度は、４年ぶりのスタディツアーの実施や、台北市立育成高級中学との姉妹校提携による交流など、多くの国際交流の機会を設けることができた。今後も将来、国際社会で貢献できる人材を育成する活動を充実していく。